

今回は、播種～育苗管理についてです。本田移植後の良好な初期生育につなげるためには、健苗移植が重要です。各管理のポイントをつかみ、健苗を育成しましょう！

＝ 播種時のポイント ＝

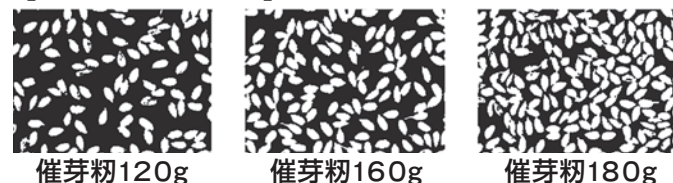
「均一播種」と「130～140g/箱のうすまき」で健苗育成の開始！

- ➔ 芽の伸ばしすぎは播種時のばらつきにつながるため、催芽時にハトムネ程度に仕上げる。
- ➔ もみは、握っても手につかない程度まで水を切ることで、均一に播種される。
- ➔ 「あつまき」にするほど田植え時の箱数や欠株が少なくなるが、軟弱徒長苗になりやすい。適度な「うすまき」で活着の良いがっちり苗を！！

【播種量の目安】

苗の種類	播種量 (1箱当り)		必要箱数 (10a当り)
	乾もみ	催芽もみ	
稚苗	130～140g	160～170g	16～18箱

【播種密度の目安】



＝ 土の準備と育苗期病害防除 ＝

【培土を使用する場合】

分類	品名	規格	1箱当り使用量	1規格のできる箱数
床土	ホーネンス培土	20kg	2.8kg	約7箱
覆土	焼土(無肥料)	20kg	1.25ℓ (1.2kg)	約16箱

【床土を作る場合】

分類	品名	規格	1箱当り使用量	1規格のできる箱数
床土	焼土(無肥料)	20kg	2.5ℓ (約2.5kg)	約8箱
	ピートモス	50ℓ	0.8ℓ (4.5合)	約62箱
	稚苗配合 (N:4 P:6 K:5)	10kg	25～30g	約400箱
覆土	焼土(無肥料)	20kg	1.25ℓ (1.2kg)	約16箱

【育苗期の病害防除薬剤】

薬剤名	規格	処理方法	1規格のできる箱数	適用病害名	
カスミン	粒剤	3kg	覆土混和・1箱当たり15～20g	約150～200箱	褐条病、苗立枯細菌病、もみ枯細菌病
	液剤	500ml	播種後、覆土前灌注・1箱当たり4～8倍液50ml	約40～80箱	苗いもち、褐条病、苗立枯細菌病、もみ枯細菌病
タチガレエース粉剤	1kg	床土混和・1箱当たり6～8g	約125～166箱	苗立枯病、ムレ苗	
ダコニール粉剤	3kg	覆土混和・1箱当たり8g	約375箱	苗立枯病	

注意！！

昨年度管内で、褐条病、もみ枯細菌病、ムレ苗等の発生が見られました。近年、育苗期の病害発生が多くなっているため、農薬混和による病害防除に努めましょう。

＝ 育苗期障害一覧 ＝

【出芽不良】

症状	原因	対策・対応
鞘葉、種子根ともに伸長しない。または鞘葉は伸長するが種子根の伸長が不良。	・出芽時の過高温 ・出芽時の過湿	・床土の透水性を改善する。 ・出芽器内の温度を確認する。

【白化苗】

症状	原因	対策・対応
出芽後も葉身が緑化せず白化(黄白化)する。または緑化しにくい。苗質が劣り移植後の活着も劣る。	・出芽期間が長い ・出芽時の過高温 ・緑化初期の強い直射日光 ・緑化期の低温または高温	・完全な白化でなければ、緑化期間は過度な低温、高温、強日射を避け育苗を継続する。

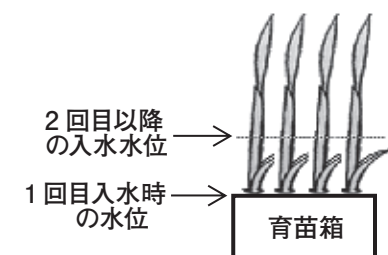
【ムレ苗】

症状	原因	対策・対応
完全葉が2葉になった頃、葉身が急に巻き始め、次第に周囲に広がり枯死する。	・急激な温度変化 ・床土のPHが高い ・床土の透水性が悪い ・厚まき	・急激な温度変化を避け、夜間の温度を8℃以下に下げない。 ・床土のPHや透水性に留意する。 ・厚まきや徒長を防止する。

※上記の障害が発生しないよう注意しましょう。

＝ プール育苗の管理 ＝

- ・緑化期終了まで同様の管理。
- ・初めの入水は硬化初期(1.0～1.2葉)に行い、苗箱の床土面まで湛水する。
- ・減水により、水深の浅い所で箱の1/3以下になったら、草丈の半分以下まで湛水する。移植前まで同様の管理を繰り返す。
- ・低温が予想される場合は、一時的に深水管理を行い保温する。



お知らせ

平成28年4月から、営農指導等は普及指導課が担当致します。
 ご不明な点等がございましたら **JA 普及指導課 (TEL:777-3786)** までお問い合わせください。

携帯メール会員募集！！

無料(通信料は除く)でタイムリーな生育状況や緊急情報をメールで配信しています。

登録の仕方がわからない方は、携帯を持って普及指導課にお越しください。こちらで登録いたします！

登録は下記メールアドレスへ空メールを送信

beikoku@haisin.jp

または、右記QRコードをご利用ください。➔



裏面もご覧ください。

育苗ステージ毎のポイント

☆出芽期

管理方法		
温度管理	日中	30～32℃
	夜間	
日数	加温	2～3日程度
	無加温(ハウス)	5～7日程度
	無加温(露地)	7～14日程度
灌水方法	行わない	
終了目安	出芽長 0.5～1cm	

※管理方法によって出芽にかかる期間が異なるため注意する。

※粉が露出した場合は覆土を追加する。

☆緑化期

管理方法		
温度管理	日中	20～25℃
	夜間	15～18℃
日数	2～4日	
灌水方法	箱周辺が乾いたら午前中にたっぷり行う。	
終了目安	第1葉の完全展開、草丈3.5cm	

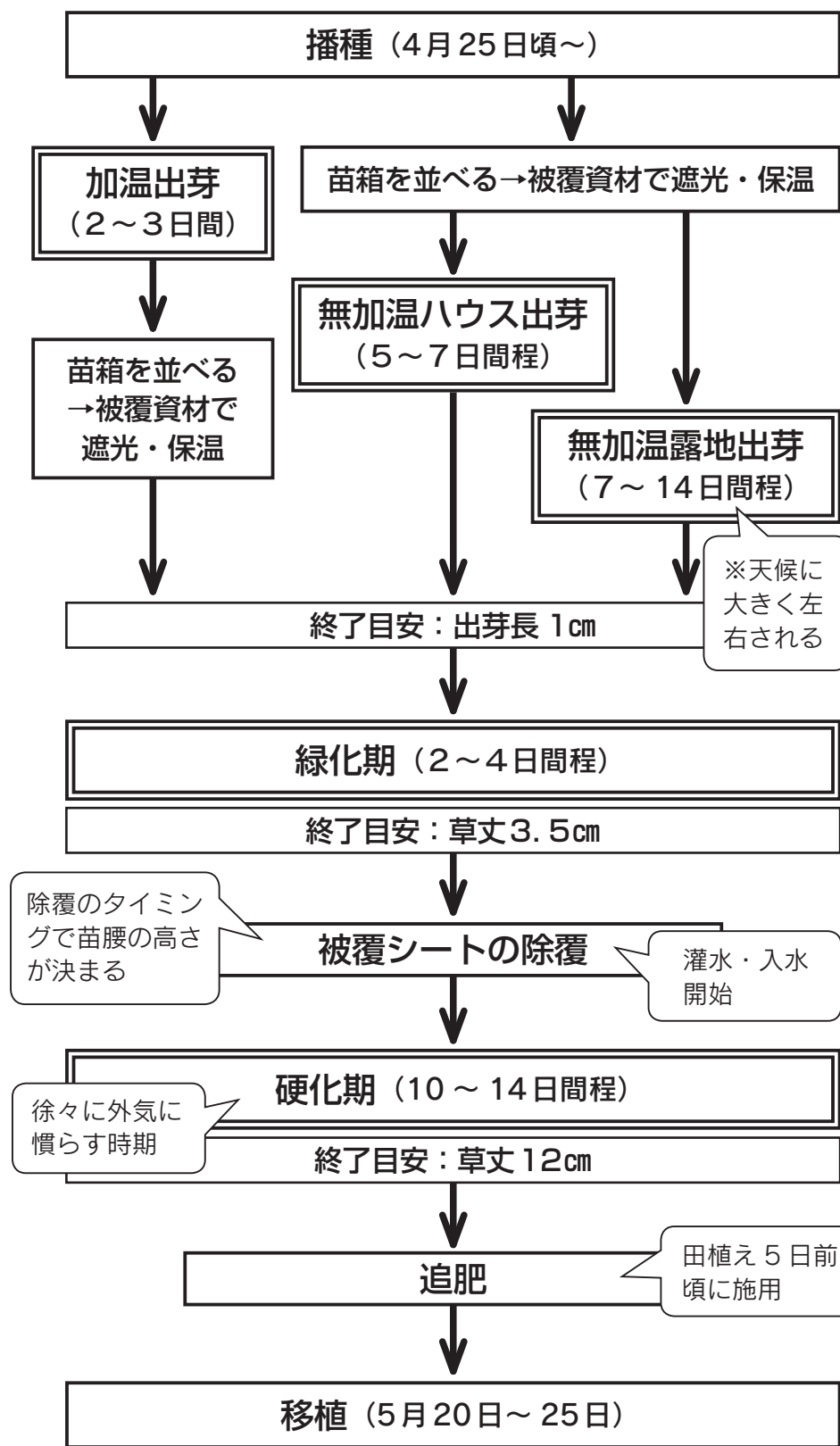
※被覆資材は第1葉の完全展開(草丈3.5cm)を目安に除覆する。

※除覆の遅れは徒長苗の要因となるため注意する。

☆硬化期

管理方法		
温度管理	日中	15～20℃
	夜間	10～15℃
日数	10～14日	
灌水方法	1日に1～2回、午前中にたっぷり行う。(夕方を避ける)	
終了目安	草丈12cm	

※硬化期の前半は8℃以下の低温や20℃以上の高温にならないように注意する。



被覆資材

材質により異なった特徴を持ちます。また、異なったシートを2重に被覆することで、安定した効果を発揮する。

【被覆資材特徴一覧】

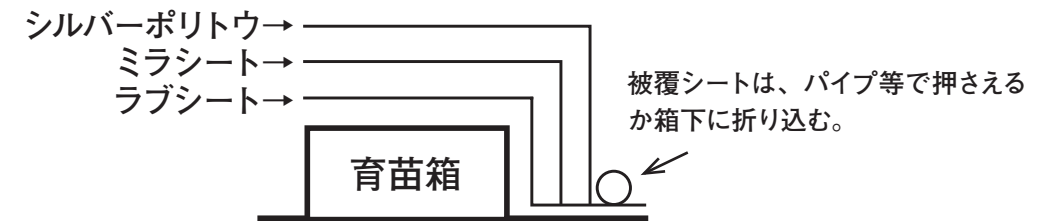
資材名	効果	特徴及び注意点
ラブシート (不織布)	保温 通気 通水	単独で使用すると過乾燥しやすい。他シートと組み合わせて使用の場合は、ラブシートの上に他シートを被覆する。
ミラシート (白スポンジ系)	保温 保湿	保温効果に優れ、低温が予想される際は有効である。反対に温度が高い場合は床土温度が上昇しやすいため苗ヤケの発生に注意する。
シルバー ポリトウ#80 (ポリ+アルミ複合)	保温 保湿 遮光	表面のアルミにより遮熱効果があり床土の高温防止に役立つ。また、低温時にも保温効果が期待できる。被覆する際は表裏を確認する。

【被覆例】

- ・ミラシート+ラブシート
- ・シルバーポリトウ+ラブシート
- ・シルバーポリトウ+ミラシート 等

シートの組合せは様々ですが、被覆の順番を間違えないよう注意してください。
(遮光性のあるシルバーポリトウは、一番上に被覆されていないと特徴を發揮できない)

【被覆シートの掛ける順番】



◎緑化期のヤケ苗に注意！

緑化期はヤケ苗になりやすい時期になるため、好天日は注意しましょう。また、降雨後、被覆シート上にたまった水は温まるとヤケ苗を助長するため、速やかに落としましょう。

◎高温時は早めの灌水を！

緑化期に高温になるとヤケ苗が助長されます。高温となりヤケ苗が心配される場合には、早めの灌水・入水(箱下にひたひた程度)を行いましょう。

育苗期は温度による影響を受けやすい時期です。育苗ステージに合わせた管理、天候に合わせた管理を行い、健苗を育成しましょう！